

いこいの村 廣瀬絹枝

題字 とくらの家

2015年(平成27年)9月20日発行

第400号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター
 所長 岩本 幸子
 編集 いこいの村編集委員会
 〒629-1242
 綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地
 TEL(0773)46-0101
 FAX(0773)46-0610
<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

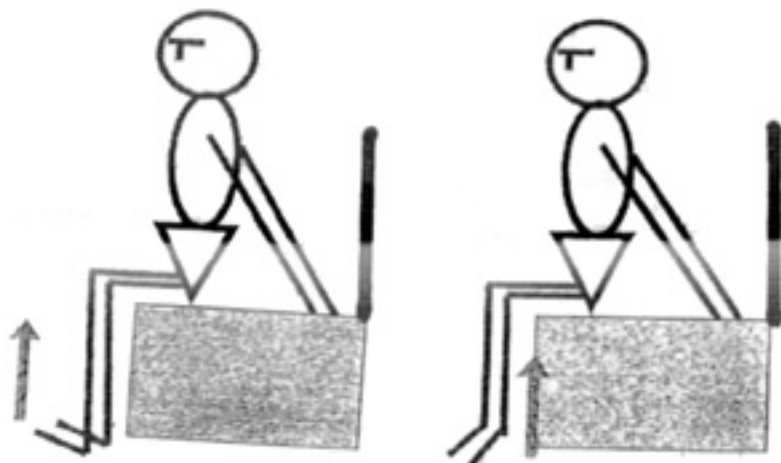
綾部市介護予防モデル事業

いこいの村

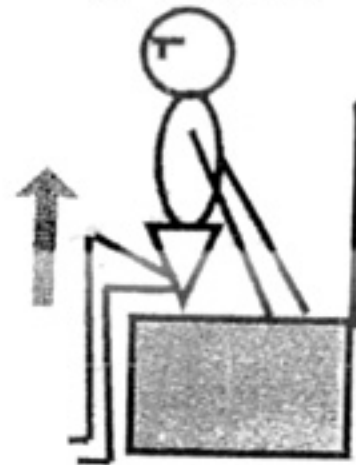
すこやかシニア教室

生活機能の向上を目的に運動・口腔・栄養に関するさまざまなプログラムを実施しています。

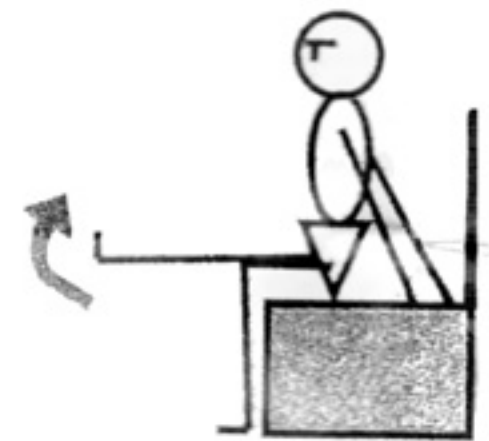
つま先・かかとあげ



ももあげ



ひざ伸ばし



つま先バッチリ!



京都協立病院
リハビリテーション課
絹岡先生

「皆さんにたく
お茶は特別に美味し
いですよ」



頭の中体操はみんなで大笑い!

さきほどまでの認知症の心配はどこへや
ら・・・
何よりの予防です!



「私が^{ともおか}頼岡体操と名付けました。こ
の体操を自宅でも毎日続けたら、以
前は出来なかった畳からの立ち上が
りがスイスイできるようになりました
た!先生、どこの筋肉が強くなった
んですか?嬉しいわあ」

後期 開催日 平成27年10月6日~平成28年3月15日 合計12回 実施

参加ご希望等お問い合わせ 綾部東部在宅介護支援センター 東まで ☎0773-46-0155 fax0773-46-0175

また利用したい 短期入所専門棟 「空の家」を目指して

梅の木寮では、今年の4月に1棟(14床)を短期入所専門棟に機能整備をして、半年が経過しました。昨年までは、長期入所の方と同じ棟で短期入所の方もご利用いただいていましたが、在宅生活を基本とする方のお世話の専門性を高めるために始めました。①日中活動の充実、②くつろげる空間づくり、③「家族に心身ともに休んでいただくための皆としての役割をもつ、を目標に日々努めています。

楽しい時間

「空の家」は、平屋建てで回廊型になっており、中央に庭があります。春は、庭を利用して園芸や野菜づくり、お茶会を楽しみました。

よもぎを摘んで、よもぎ風



たまご割るで～

「等、生き生きとした声が飛び交いました。ご利用者の方々の手際の良さに、職員一同感心させられました。



よもぎ摘み！お風呂が楽しみ！

「お好み焼き作りにも挑戦しました。久しぶりにエプロンに手を通して「何年ぶりやろ〜」「私がキャベツ切ろか」「私も混ぜよか」「たまご割るで〜」等、生き生きとした声が飛び交いました。ご利用の方々の手際の良さに、職員一同感心させられました。

普段は自宅で過ごされて

いるので、自宅に比べて仕事や趣味、経験がいかせる取り組みが、できるような心がけています。

また、京都から来られる聴覚障害の方は、長期入所されている聴覚障害の友達に会うのを、楽しみにされています。食事が終わると、「行ってきます」と会いに行かれます。これから、交流を大切にしていきたいと思っています。

課題と展望

「空の家」は聴覚障害の方、聴こえる方が一緒に、ご利用いただいています。風船バレーや創作活動等、取り組みの時間を共有する中で、聴覚障害の方から「今の話、何っ」「何て言ってるの?」「職員に聞かれるじいちゃありません。また、聴こえる方からも手話をしてる職員を見て、同じことを聞かれます。職員が会

話の橋渡しをしていますが、十分でない場合があります。

聴覚障害の方も聴こえる方も一緒にお話が楽しめる様職員一人一人の手話技術の向上が課題です。



お茶飲みながら「ほっこり」

今後、ご利用者お一人一人の体調やお気持ちをきめ細やかに把握し、「安心して過ごしていただける居場所」となるよう努めてまいります。

(梅の木寮 空の家)

吉田 直子/佐藤 香)

介護のワンポイント

8月1日から介護保険の利用料が変わりました。

☆「利用者負担の割合」

これまで介護保険サービスを利用する際、誰もが費用の1割を負担することになっていましたが、本人の年金や所得等の合計が年間280万円以上の方は2割負担となります。

☆「負担限度額認定制度」

介護保険施設を利用する場合、低所得の方にお部屋代と食事代の負担が軽減されましたが、①本人、配偶者が課税されている方、②預貯金額等が、単身で1000万円以上の方、または、配偶者との合計が2000万円以上の方が軽減されません。

どちらの証書が届きます。

詳しいことや不明な点は担当ケアマネジャーにおたずねください。



聴こえの口知識

〜実際にあった読み間違い〜

『生そは』

正しい読み方を「存知ですか？」

私は読み方を間違えたろう
あ者です。周りの情報は視覚
を駆使して捉えています、
漢字の読み間違いは切っても
切れないような縁にあります。

冒頭の『生そは』は、くきと
ばくと読むことを教わったの
は、去年のある講演でのこと
です。講演に立つ講師は、ろ
う運動を奔走するろうあ者で
す。黒板に大きく『生そは』
と書き、聴衆に向かって「読
み方を知っていますか？」と
尋ねました。私は「(なまそ
は)と内心でつぶやきなが
ら『なまそは』と読むと思っ
た人？」と聴衆に問い、全員が
手をあげました。
「実は…違つんですー!」



講師の体験談

講師が若かりし頃、勤めて
いた会社の同僚と、昼休みに
外で食べに行く話になりまし
た。何食べようかなと、探し
歩いていると、店の暖簾に『生
そは』の文字が目に入りました。

「あの店の暖簾に『なまそ
は』ってあるんよ。『なまそは』
食べようか」と同僚に言いま
した。すると同僚が「ん？な
ま…？なまそは？」と眉をひ
そめて聞き返しました。「うん

なまそはーほら、あそこのよ」と、
暖簾を指すと、同僚は
講師が『生そは』を「なまそ
は」と読み間違えていることに
気づきました。「あれ、『き
そは』と読むんだ」読み間違
いを指摘された講師は自尊心
が傷つき空腹感も一瞬に失い
ました。

ですが聴こえる同僚も同じ
経験をしたことがあったそう
です。「だって生そはは『な
まびる』と読むから、生そ
はも『なまそは』って思うじ
ゃん」と打ち明けられた時
開放感に満ちた気持ちになっ
たという話でした。

聴こえる人も普段、あまり
読みなれていない漢字で殺陣
(たて)や西瓜(すいか)な
ど、読み間違えることもあり
ますが、耳からの情報が限ら
れているろうあ者は特に読み
間違えることが多いのです。

(梅の木奈 和田淳希)



いこいの村
総務

部長 吉田 正和

9月1日は防災の日です。

関東大震災の日に因んだもの
で、この時期、台風等の風水
害も多く「災害への備えを怠
らないように」との戒めの意
味も込められ制定されていま
す。あの東日本大震災から4
年半が経とうとしています。

いこいの村では、今年も年
9回の防災訓練を実施・計画
しています。訓練は、いかに
安全にスムーズに避難するか
に主眼を置きます。出火場所
や時間の想定を毎回変え、利
用者の皆さんの障害にも配慮
した避難方法を考え備えます。

いこいの村は、福井県の高
浜原子力発電所から半径30
km圏内に立地します。福島
第一原発の事故を受け、京都
府でも原子力災害等の大規模
災害に備え「災害時要配慮者

避難支援センター」を立ち上
げ要配慮者の避難・受入調整
等に取り組んでいます。受入
施設とのマッチング、移送手
段等の整備、それらに係る費
用の問題等課題は山積です。

今、国では平和や安全に関
して国民の意見を二分する議
論がなされています。一つ確
かなのは、平和や安全が保た
れない所には福祉は成り立ち
ません。『いこいの村新聞』は
今号で400号を迎えます。
これからも事実の発信を通し
て我々の進む道を考えていと
思っています。

みんなの手話

避難所



逃げる

両こぶしを右上に
さっと上げる。



場所

全指を曲げた右手を
前に置く。

